

平成 26 年度
公益財団法人黒潮生物研究所
事業報告

目次

I 事業の概要	1
1-1. 調査研究	1
A. 黒潮流域における生物相調査（生物多様性、自然史に関する総合的な情報の収集・整理）	1
1) 四国沿岸域における海産無脊椎動物相の把握、および地域生態系、生物多様性に関する情報の収集と整理	
B. 海産無脊椎動物の分類学的研究	
2) 四国西南地域の沿岸域における生物資源の利用とその変遷に関する研究	
3) 美ら海水族館周辺八放サンゴ類相調査	
4) 他の研究機関が行う生物多様性調査等への参加	
5) 黒潮生態系に関する生物多様性情報、自然史資料等のライブラリ化の検討	
B. 海産無脊椎動物の分類学的研究	3
1) 造礁サンゴ類（イシサンゴ類）	
2) 八放サンゴ類	
3) 棘皮動物	
4) 軟体動物	
C. 海産無脊椎動物の生態研究	5
1) 造礁サンゴ類の繁殖生態・生活史に関する研究	
2) 棘皮動物の繁殖生態・生活史に関する研究	
D. 保全手法に関する研究	6
1) 造礁サンゴ類の種苗生産技術、移植技術の開発に向けた研究	
2) カイメン類の飼育技術の確立に向けた研究（須磨水族館との共同研究）	
3) 貝殻増殖礁のサンゴ類の着生基盤としての有効性の検証（海洋建設株式会社との共同研究）	
E. その他研究	6
1) 造礁サンゴ類の染色体観察手法の開発および染色体の研究	
2) 棘皮動物由来の新規カロテノイド化合物の検索に関する研究	
1-2. 研究支援・研究協力	7
(1) 外部研究者等への研究支援	
(2) 研究助成	
(3) 利用者の受け入れ	
1-3. 学会等開催	9
(1) 日本サンゴ礁学会第17回大会（高知大会）の開催（大会運営）	

<調査研究関連の獲得資金一覧（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

2. 自然環境保全 10

- (1) 自然環境保全関連事業・施策への参加・協力、支援および調査の受託
- (2) 海域保全活動団体等への活動支援
- (3) 生物多様性保全、および沿岸域における環境保全のネットワーク構築

<自然環境保全関連の獲得資金一覧（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

3. 普及啓発 13

- (1) 自然史資料の公開
- (2) 海辺の環境教育・社会教育の推進
 - 1) 自然教育、科学教育プログラムの企画・開催および講師派遣
 - 2) 地域の自然の教材化に向けた取り組み
 - 3) 地域における環境教育、自然教育ネットワークの構築
- (3) 海洋生物や沿岸の環境に関する科学的対話機会の創出
- (4) 書籍の出版等
 - 1) 和文機関誌「CURRENT」の発行
 - 2) 英和文学術誌「Kuroshio Biosphere」の発行
 - 3) 水産多面的機能発揮対策事業リーフレットデザイン

(5) ホームページ、ブログの運用

(6) マスコミ等への資料および情報提供

<普及啓発関連の獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

4. 業績のまとめと一覧 18

- (1) 著作
- (2) 講演等
- (3) 講師派遣実績

5. 寄附等 25

II. 庶務の概要 26

- 1. 役員等に関する事項
- 2. 職員等に関する事項
- 3. 会議に関する事項

(1) 平成 25 年度理事会

(2) 平成 25 年度評議員会

(3) 評議員選定員会

4. その他の庶務事項

(1) 登記等

I 事業の概要

1. 調査研究

1-1. 調査研究の実施

A. 黒潮流域における生物相調査（生物多様性、自然史に関する総合的な情報の収集・整理）

地域生態系の構造や機能、特性などの理解と長期的な環境変動の把握を行うため、黒潮生態系に関する多面的、網羅的な情報（生物相、生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性に関する情報、自然史情報）を広く収集し、海洋生物研究の発展や海域保全活動の推進に寄与するとともに、国内外の調査研究の用に得られた情報を供した。

1) 四国沿岸域における海産無脊椎動物相の把握、および地域生態系、生物多様性に関する情報の収集と整理

○四国沿岸の海産無脊椎動物相調査（生物多様性調査・一般標本の収集）

黒潮生物研究所のプロジェクト調査として四国沿岸の浅海域における海産無脊椎動物相調査を継続して実施し、地域生態系に関する広範な情報（分布や生息環境、生態に関する情報、生態写真、標本写真等の写真資料など）の収集と一般標本の収集を進めた。平成 26 年度は 164 点の標本を登録した（棘皮動物標本を含む）。

○四国沿岸およびその周辺海域の造礁サンゴ相の把握および造礁サンゴ群集の分布と攪乱、変遷に関する研究

四国沿岸域において生態系の基礎としての役割を担う造礁サンゴ群集の動態を把握するための基礎調査を引き続き行った。四国西南海域を中心に潜水採集調査等を実施し、スポットチェック法およびその他の調査手法を用いた現地調査により、広域的な造礁サンゴ類の分布状況と攪乱状況の把握、またサンゴ群集の変遷などを記録した。

<関連する外部獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

平成 26 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務（一般財団法人自然環境研究センター）

○四国西南海域の棘皮動物相調査

四国沿岸域の棘皮動物相を明らかにするため、引き続き四国西南海域を中心に潜水採集調査、漁具を用いた採集調査、宝石珊瑚漁や底引き網漁等の混獲物調査を行い、潮間帯から水深 150m までの浅海域について棘皮動物の分布に関する情報、種多様性情報、標本の収集・整理した。これまでヒトデ類 96 種、クモヒトデ類 53 種、ウニ類 47 種、ナマコ類 34 種を確認した。また、ウミシダ類については浅海性の種が計 27 種確認され、結果の一部が機関紙 CURRENT にまとめられた（CURRENT Vol.15, No. 4）。このほか、本調査結果を基に、第 11 回棘皮動物研究集会、はたのおと 2015 など

で発表が行われた。また、浅海性クモヒトデ類、正形ウニ類、ヒトデ類についての標本整理とリストの作成が進められた。

○四国沿岸の海産等脚類相に関する研究

これまで十分な知見が蓄積されていなかった四国沿岸の海産等脚類相を明らかにする目的で、日本における等脚類研究の第一人者である布村昇氏を招聘し、共同研究として平成 23 年度より継続して調査を実施した。本研究により 15 種の新種（うち、5 種が水生種、10 種が陸産種）と 1 新亜種を含む 93 種が記録された（Nunomura2013；2014）。また、本研究結果は「四国産等脚目甲殻類」としてまとめられ、四国産等脚類（主に潮間帯および上部潮下帯に出現する種）のリストと検索表、各種の解説が示された。本報告は平成 27 年 4 月発行の *Kuroshio Biosphere*（電子版）に掲載された。

○四国西南地域における潮間帯生物相の把握

四国西南海域の潮間帯生物相（主に大型の底生無脊椎動物相）の把握を目的とした岩礁性海岸および砂浜、干潟域での生物採集調査を引き続き行った。平成 26 年度は土佐清水市竜串において、市民参加型の潮間帯生物調査（たつくし磯の生きもの調査）を実施した（平成 27 年 3 月 22 日：環境省主催自然観察会）。

○造礁サンゴ類の分布北限域におけるイシサンゴ類、ソフトコーラル類、海藻類の分布構造の変遷に関する研究

南日本の太平洋岸を中心に、各地で報告されている海水温の上昇に起因すると考えられる底生生物群集の分布構造の変化を明らかにするため、四国沿岸（特に愛媛県宇和海海域および徳島県阿南海域など）において、イシサンゴ類、ソフトコーラル、海藻類などの固着性の底生生物の分布状況を記録し、過去と比較することで、その種構成や分布構造の変化から、相互関係の解明と長期的な環境変動の影響の把握を行った。平成 26 年度はモニタリングサイト 1000 事業及び研究所自主事業としておこなったスポットチェック調査により概況を把握した。

○四国沿岸域におけるオニヒトデの分布状況の変遷および動態に関する研究

近年、四国太平洋沿岸で発生しているオニヒトデの大発生を受けて影響評価と効果的な対策の検討・実施のための基礎資料の収集し、高緯度域におけるオニヒトデの動態を明らかにするために、現地調査および聞き取り調査、文献調査などを引き続き実施した。平成 26 年度は毎年継続して行っているサンゴ群集の調査により、全域的な情報を収集したほか、請負調査として足摺海域（高知県土佐清水市足摺半島から高知県宿毛湾海域まで海域）についての集中的な現地調査を実施し、現在のサンゴ群集及びサンゴ食害生物の分布の現状、および近年のオニヒトデ大発生に伴うサンゴ群集の攪乱状況を明らかにした。本調査結果は、本研究の結果は平成 26 年度マリンワーカー事業（足摺宇和海国立公園海域保全調査）（中国四国地方環境事務所）の業務報告書としてまとめられたほか、四国西南地域の海域保全活動のネットワーク、足摺

宇和海保全連絡協議会で情報が共有され、四国各地で行われたサンゴ保全活動の実施に際し、得られた知見の活用がなされた。このほか、これまでの研究結果の一部をとりまとめ、平成 26 年 11 月に高知市で行われた日本サンゴ礁学会 17 回大会でポスター発表した。

＜関連する外部獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）＞

平成 26 年度マリンワーカー事業（足摺宇和海国立公園海域保全調査）（中国四国地方環境事務所）

2) 四国西南地域の沿岸域における生物資源の利用とその変遷に関する研究

足摺宇和海国立公園海域における自然資源、生物資源の利用とその変遷に関する情報を収集・整理する。平成 26 年度は聞き取り調査、既存資料調査等を行い、高知県の宿毛湾とその周辺の地域についての情報を重点的に集めた。本調査の一部は平成 27 年 1 月に高知県三原村で行われた「はたのおと 2015」で「宿毛湾地域の海岸生物の利用と生物方言」としてポスター発表したほか、機関紙 CURRENT で発表した（「高知県幡多郡大月町西泊の海岸地名について」）

3) 美ら海水族館周辺八放サンゴ類相調査

平成 23 年度から継続している海洋博覧会記念公園管理財団との共同調査（請負業務）。美ら海水族館周辺の八放サンゴ相を明らかにすると共に、その成果を展示や図録の刊行等を通して普及するための基礎資料の作成を目的とする。平成 26 年度は調査をとりまとめ、報告書を作成した。

＜関連する外部獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）＞

H26 ウミトサカ標本同定業務（一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター）

4) 他の研究機関が行う生物多様性調査等への参加

他の研究機関により国内外で行われる生物調査等に参加する。平成 26 年度は大阪湾海岸生物研究会の生物調査（和歌山市田倉崎海岸、三重県神集海岸）、国立科学博物館の小笠原調査、東京大学大気海洋研究所の東南アジア教育研究拠点形成事業（タイ国プーケット周辺海域の八放サンゴ類現地調査、水産庁・立正大学による小笠原周辺海域宝石珊瑚緊急対策調査など）に参加した。

5) 黒潮生態系に関する生物多様性情報、自然史資料等のライブラリ化の検討

これまでの財団の調査研究活動で蓄積されてきた黒潮生態系等に関する生物多様性情報、自然史情報を広く一般に供するため、標本、写真資料（生態写真、景観写真）、映像資料等のライブラリ化を進めた。平成 26 年度は標本整理および、写真資料の整理を進め、ライブラリの構築と公開に向けた準備を進めた。

B. 海産無脊椎動物の分類学的研究

1) 造礁サンゴ類（イシサンゴ類）

○形態および生態情報に基づく造礁サンゴ類の分類学的検討

国内外の研究者と連携し、黒潮生物研究所の調査・研究活動で得られた生態的・形態学的情報（四国の造礁サンゴの産卵生態に関する知見や交配実験結果、骨格や組織の微細構造などの情報）と、他の研究機関等が持つ分布情報や遺伝子情報などを総合的に検討し、造礁サンゴ類の分類について再検討を行った。平成 26 年度はこれまでの取り組みを継続して進めるとともに、高知大学とのプロジェクト研究として、形態学的分類指標（骨格形態）と生態的情報、遺伝子情報を合わせた分類指標の探索を行った。

2) 八放サンゴ類

八放サンゴ類の分類学的研究としては以下の様なテーマが取り組まれた

- 長崎県福江島（五島諸島）産八放サンゴ類の分類学的研究
- 海洋博覧会記念公園周辺海域沿岸のサンゴ礁に生息するウミトサカ類生物相調査において採集したウミトサカ類標本の分類学的研究（共同研究機関：一般財団法人沖縄美ら島財団：経費は一般財団法人沖縄美ら島財団が支出）
- 駿河湾産有藻性ウミトサカ類の分類学的研究（共同研究機関：静岡県淡島マリニパーク）、（材料及び写真情報は淡島マリニパークが提供）
- 相模湾産八放サンゴ類未記載種の記載（和歌山研究室で実施）

平成 25 年度にまとめられた相模湾産八放サンゴ類で「未記載種」とした種の新種記載を行うため、論文のとりまとめなどを進めた。

3) 棘皮動物

棘皮動物相調査等で得られた情報・標本を基に棘皮動物に関する分類学的研究を引き続き行った。平成 26 年度は以下のような研究が行われた。

- 西泊地先で得られるコアシウミシダ類の分類学的検討
標本の精査を行ない、隠蔽種の存在を明らかにした。
- 高知県大月町柏島から得られたウミシダの未記載属についての記載
分類学的検討の結果を取りまとめ、国際誌に投稿中。
- 土佐清水市沖および宿毛市沖の島海域で得られたケムシヒトデ科 *Chaetasteridae* 未記載種の検討
- 浅海性ナマコ目の分類学的研究（和歌山県立自然博物館 山名氏との共同研究）
日本初記録種と思われるいくつかの種について標本に基づいた分類学的検討を進めた。
- 沖縄産海シダ類の分類学的研究
投稿中だった沖縄島で得られた国内初記録 2 種に関する論文が受理された。

4) 軟体動物

- 高知県大月町西泊海域で観察されたスギノハウミウシ類の未記載種の分類学的検討
平成 25 年度より客員研究員が継続して実施している研究。平成 26 年度は記載に必要な追加サンプルを得るため、引き続き採集調査を行い、得られた標本に基づいて

分類学的検討と種の記載のための作業を進めた。

C. 海産無脊椎動物の生態研究

1) 造礁サンゴ類の繁殖生態・生活史に関する研究

○高緯度域におけるイシサンゴ類の産卵パターンの把握

平成 14 年度より継続して実施。造礁サンゴ類の産卵期である初夏から夏にかけての時期に、夜間及び早朝等に潜水調査を行い、造礁サンゴ類の生活史を知る上で最も基礎的な情報のひとつである産卵に関する情報を収集している。調査地は、高知県大月町西泊の研究所地先ほか、同町柏島地先、土佐清水市竜串湾地先などである。これまでに 51 種の造礁サンゴ類の産卵等を確認しており、多くの種の産卵様式や産卵パターン、雌雄性について新たな知見が得られている。平成 26 年度もこれまでと同様な調査を継続し、得られた配偶子を利用した共同研究等を進めた。

○野外における幼サンゴの動態に関する研究（台湾中央研究院との共同研究）

平成 24 年度より継続。研究所地先海域に設定した永久方形区について、引き続き、幼サンゴの動態を記録することにより、野外における幼サンゴの生残、成長に対する制限要因の検討を進めた。

○サンゴへの褐虫藻感染に関する研究（国立遺伝学研究所と静岡大学との共同研究）

継続して実験を行い、論文を投稿予定。

<関連する外部獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

平成 26 年度助成研究活動支援事業（連携型）共同研究プロジェクト研究費ほか

2) 棘皮動物の繁殖生態・生活史に関する研究

○高知県大月町におけるダキクモヒトデ（クモヒトデ目）の繁殖周期と生活史、およびペア形成機構に関する研究（富永英之氏との共同研究）

分布や生態的な情報が乏しいダキクモヒトデのペア形成機構、繁殖周期などを明らかにするため、高知県大月町古満目地先で定期的な採集調査を行った。これまで 2013 年 6、8 月、2014 年 3、7、12 月の 5 回のサンプリングを行い、雄 94 個体、雌 141 個体、計 235 個体を採集した。生殖腺の組織学的観察の結果、いずれの月でも雌雄とも発達した生殖腺を有していることがわかった。この結果から大月古満目地先では年間を通して繁殖を行っていることが示唆された。

○ニッポンウミシダ（ウミシダ目）の産卵期と制限要因の解明に向けた研究

平成 26 年度からの新規研究としてニッポンウミシダの産卵期と緯度勾配の関連性を明らかにするため、神奈川県三浦半島（三浦）、静岡県伊豆（下田）、高知県土佐清水市竜串湾などで調査を行った。高知での産卵は三浦から 8 週間近く遅れることが示された。

<関連する外部獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

マリンバイオ共同推進機構課題 No.26-44m, 26-44s 「ニッポンウミシダの産卵期と緯度勾配の関連性」

D. 保全手法に関する研究

1) 造礁サンゴ類の種苗生産技術、移植技術の開発に向けた研究

平成 10 年度より継続にしている研究。平成 26 年度は引き続き、有性生殖を用いた種苗生産手法の検討を行った。平成 26 年度は貝殻を用いた着生器の有効性の検証を行った。なお、本研究は宿毛湾環境保全連絡協議会の保全対策事業等との連携により実施された。また、これに関連して愛媛大学と愛南町でのサンゴの保全に関する共同研究を開始した。

2) カイメン類の飼育技術の確立に向けた研究（須磨水族館との共同研究）

研究所地先で採集したカイメン類を用いて、飼育下におけるカイメン類の生育観察、飼料の検討などを行った。平成 26 年度も採集と須磨水族館での飼育実験を継続して実施した。

3) 貝殻増殖礁のサンゴ類の着生基盤としての有効性の検証（海洋建設株式会社との共同研究）

貝殻増殖礁のサンゴ類着生基盤としての有効性の検証を行うため、平成 15、16 年度に JF 全漁連が愛媛県宇和島市戸島地先に沈設した貝殻増殖礁（海洋建設株式会社が開発）への造礁サンゴ類の着生状況、生育状況を引き続き現地調査によりモニタリングした。（調査経費は海洋建設が支出）

E. その他研究

1) 造礁サンゴ類の染色体観察手法の開発および染色体の研究

高知大学との共同研究として造礁サンゴ類の染色体観察手法の開発および染色体研究を継続して行う。これまでの研究により初期の胚を用いることで造礁サンゴ類の染色体を詳細に観察することに世界で初めて成功した。しかし、一般に造礁サンゴの胚の入手は困難で、試料が得られる時期や機会が限られるため、胚以外を用いて染色体を観察する手法の開発に向けた実験を進めている。平成 25 年度に予備実験を終え、平成 26 年度は水槽飼育群体、野外の天然群体からのサンプル採取の手法を検討した。また、新たな手法により、造礁サンゴ類の染色体に関する情報を更に広く収集した。

2) 棘皮動物由来の新規カロテノイド化合物の検索に関する研究

近畿大学農学部環境管理学科環境化学研究室（坂上 吉一教授）との共同研究として、海洋無脊椎動物の生理活性物質に関する研究を継続して行った。平成 26 年度は浅海性のナマコ類およびクモヒトデ類について新規カロテノイド検索を行ったところ、樹手目ナマコの 1 種から新規のカロテノイド化合物が発見された。今後、構造解析に必要な追加サンプルを入手し、構造決定ののち、論文を作成投稿する予定。

1-2. 研究支援・研究協力

(1) 外部研究者等への研究支援（情報・標本の提供、調査コーディネート、施設利用）

生物採取や野外調査で四国を訪れる研究者等に対する情報や標本の提供、サンプリング調査等のコーディネートを引き続き行った。平成 26 年度に行った研究支援協力としては以下の様なものがある（共同研究は除く）。

- ・高知大学教育学部伊谷研究室アナジャコ共生者相調査（研究協力：助成研究）
- ・高知大学自然科学系農学部門水族環境学研究室足立研究室微細藻調査（調査協力）
- ・広島大学サンゴモ類相調査（研究協力）
- ・広島大学大学院生物圏科学酒井研究室魚類の生態学的研究予備調査（研究協力）
- ・海洋研究開発機構アプリケーションラボ（研究協力）
- ・琉球大学理学部海洋自然科学科ライマー研究室ウミエラ類研究方手法（研究協力）
- ・琉球大学理学部海洋自然科学科ライマー研究室（研究協力：ヤギ類文献情報提供及び貸出）
- ・東海大学海洋学部赤川研究室ハナハゼの繁殖生態と共生（研究協力）
- ・東海大学海洋学部横地研究室高知県橘浦産ワレクサビライシの個体群構造および個体群維持機構の解明（研究協力）
- ・ハイデルベルグ大学（ドイツ）渡邊寛博士（研究協力：Nature 投稿原稿への写真及びコメントの提供）
- ・和歌山県立自然史博物館ナマコ類調査（採集協力）
- ・しものせき水族館（奄美大島産大型ヒドロ虫類についての情報提供）
- ・アクアマリン福島（駿河湾 ROV 調査で得られた八放サンゴ類についての情報提供）
- ・九十九島水族館（八放サンゴ類の飼育及び研究方法についての助言）
- ・いおワールドかごしま水族館サンゴ種苗生産手法（研究協力：研修受け入れ）

(2) 研究助成

十分な資金を持たない学生や市井の研究者の研究に対して助成を行うことにより、次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として平成 17 年度から毎年研究助成を行っている。平成 26 年度は以下の 3 件の研究助成を行った。これまでに助成した件数は 43 件となった。

【平成 26 年度助成研究】

- 高知県橘浦産ワレクサビライシ *Diaseris* sp. の個体群構造と個体群維持構造の解明（喜多村 鷹也（東海大学 大学院）：助成期間 1 年）
- ハナハゼ *Ptereleotris hanae* の繁殖生態とダテハゼ *Amblyeleotris japonica* との共生関係（木村 瑞紀（東海大学 大学院）：助成期間 1 年）
- 黒潮流域における希少ハゼ類の共生生態学（邊見 由美（高知大学）：助成期間 1 年）

(3) 利用者の受け入れ

平成 26 年度の調査研究目的の研究所利用者数は 96 名（前年度 53 名）、延べにして 1046 人日（前年度 1003 人日）となった。学会等での利用呼びかけや積極的な受け入れを行うことにより、利用者は前年度に比べて増加した。なお、平成 25 年度から調査研究目的以外に、企業、地域市民団体、保全活動グループ、大学生物系サークル、教職員などを対象とした研修会等の積極的な受け入れを行っており、平成 26 年度は計 112 名、延べ 118 人日の利用があった。（詳しくは「4. 普及啓発」を参照）

調査研究目的の研究所利用状況

研究職	3 人	延べ	12 人日
大学教員	14 人	延べ	68 人日
Post Doctor	0 人	延べ	0 人日
大学院生	12 人	延べ	271 人日
大学生	37 人	延べ	628 人日
一般社会人	25 人	延べ	56 人日
学校教員	1 人	延べ	1 人日
企業	2 人	延べ	10 人日
合計	94 人	延べ	1046 人日

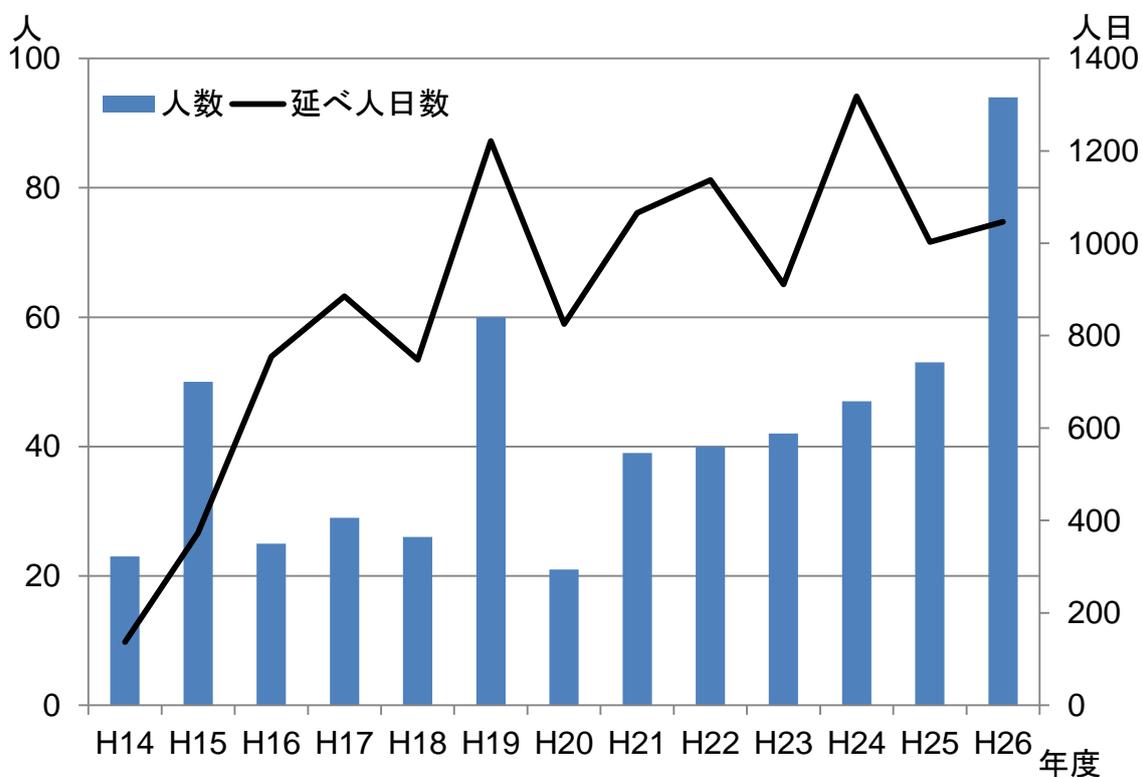


図. 調査研究目的の利用者数の推移

表. 研修等での研究所利用

一般社会人	88 人	延べ	88 人日
学校教員	16 人	延べ	16 人日
大学教授	2 人	延べ	2 人日
専門学生	1 人	延べ	7 人日
企業	5 人	延べ	5 人日
	112 人	延べ	118 人日

1-3. 学会等開催

(1) 日本サンゴ礁学会第 17 回大会（高知大会）の開催（大会運営）

11 月 27 日（木）～12 月 1 日（月）の日程で、高知市および高知県大月町で行われた日本サンゴ礁学会第 17 回大会の実行委員会を高知大学とともに運営した（大会実行委員長：目崎拓真）。本学会初の西日本での地方大会（沖縄地域除く）となった本大会には約 190 名の参加があった。また、研究発表を合わせて宝石サンゴに関するシンポジウム、温帯域サンゴ群集に関する公開シンポジウムなどを開催した。また、高知西南部でのエクスカージョン（スクーバダイビングやグラスボートでのサンゴ群集の視察）を企画・実施し、20 名あまりが参加した。

<調査研究関連の獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）>

1. 平成 26 年度ウミトサカ標本同定業務

契約先：一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター

契約期間：平成 26 年 4 月 22 日～平成 27 年 3 月 15 日

内 容：沖縄県本部町美ら海水族館周辺海域のウミトサカ類標本調査

2. 平成 26 年度マリンワーカー事業（足摺宇和海国立公園海域保全調査）

契約先：中国四国地方環境事務所

契約期間：平成 26 年 6 月 23 日～平成 27 年 3 月 20 日

内 容：足摺宇和海国立公園の足摺地域におけるサンゴ群集及びサンゴ食害生物の分布状況と国立公園海域のけるサンゴ保全活動の実施状況の現況調査

3. マリンバイオ共同推進機構課題 No.26-44m, 26-44s 「ニッポンウミシダの産卵期と緯度勾配の関連性」

2. 自然環境保全

調査研究活動で得られた知見や情報を社会に還元し、専門知識や技術を自然環境の保全に向けた取り組みに活用するため、保全に資する事業、活動、施策に参加、協力し、あるいは取り組みの実施や支援を行った。平成26年度における関連した取り組みは以下のとおり。

(1) 自然環境保全関連事業・施策への参加・協力、支援および調査の受託

引き続き、環境保全、生物多様性保全等を目的とした事業・施策への参加・協力、支援および関連調査の受託

- ・モニタリングサイト1000事業における担当調査の実施

新・生物多様性国家戦略の策定を受けて平成15年度から環境省自然環境局生物多様性センターが行っている「モニタリングサイト1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」の四国西南部沿岸海域におけるモニタリング調査を引き続き研究所が担当した。また、関連する会議等に参加した（一部請負業務）。

<関連する請負業務>

平成26年度モニタリングサイト1000事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務（一般財団法人自然環境研究センター）

- ・宿毛湾環境保全連絡協議会の水産多面的機能発揮対策事業への参加と協力

地域活動団体「宿毛湾環境保全連絡協議会」が実施する宿毛湾沿岸地域の環境及び生態系保全、沿岸域の多面的機能の向上に向けた取り組みに引き続き、参加協力した。請負業務として「サンゴ礁の保全、および藻場の保全」事業の全体計画の企画・立案、モニタリング調査の実施と事業効果の評価、保全活動に関する技術協力、進行管理を行った。平成26年度は関連するシンポジウムの開催等を行い、基調講演、ブースの出展等なども行った。

<関連する請負業務>

平成26年度水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務（宿毛湾環境保全連絡協議会）

- ・竜串自然再生プロジェクトへの参加

高知県土佐清水市竜串湾で継続して行われているサンゴ群集をはじめとした豊かな生態系の維持回復、地域の自然資源の持続的な利用を目指す取り組みに引き続き参加した。平成26年度についてもこれまでと同様に海域モニタリング調査（請負業務ほか）を継続して実施するとともに、専門家技術支援委員会や協議会、幹事会へ参加した。また、本プロジェクトに関連して市民参加のモニタリング活動（竜串スポットチェック、竜串リーフチェック）を実施したほか、近隣の小学校における環境学習プログラムの提案や実施、地域活動への参加や協力を引き続き行った。

<関連する請負業務>

平成26年度竜串地区自然再生事業海域調査業務（中国四国地方環境事務所）

- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会の取り組みへの参加

徳島県海陽町竹ヶ島海中公園地区の自然再生を目的とした事業を行う協議会の活動に継続して参加した。黒潮生物研究所が独自で行っているモニタリング調査（スポットチェック調査）を実施したほか、その結果を平成 27 年 3 月 13 日に行われた協議会で報告した。

- ・宿毛湾沿岸域総合管理研究会への参加

高知県宿毛湾がモデルサイトとして選定され、進められている沿岸域総合管理の実施に向けた研究会「宿毛湾沿岸域総合管理研究会」に引き続き参加した。会議への出席、当該地域の沿岸生態系に関する情報の提供、研究所への視察の受け入れ、などを行った。

（２）海域保全活動団体等への活動支援

四国沿岸海域においてサンゴ群集の保全等の海域の保全活動を行っている民間団体に対して活動計画の立案に向けた情報提供、技術的な指導、その他の活動支援を行い、当該海域における自然環境保全活動の円滑化、活性化に寄与する。平成 26 年度は以下にあげた活動団体に対する活動支援を行った（一部請負業務）。

- ・沖の島海洋レジャー事業組合、宿毛湾潜水研究会、JUDF 四国（高知県宿毛市沖の島海域におけるサンゴ保全活動）
- ・NPO 竜串観光振興会（土佐清水市竜串湾周辺地域における流域、サンゴ群集、藻場等の保全活動、環境教育活動）
- ・愛南サンゴを守る会への活動支援（愛媛県南宇和郡愛南町西海海域におけるサンゴ保全活動、西海リーフチェック）
- ・足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会（足摺宇和海国立公園海域における海域保全活動、自然解説活動）
- ・土佐清水市観光ボランティア（土佐清水市足摺地区および竜串地区における自然解説活動）
- ・カイクネイチャーネットワーク（徳島県牟岐大島における海域保全活動）

<関連する請負業務>

平成 26 年度マリンワーカー事業（足摺宇和海国立公園海域保全調査）（中国四国地方環境事務所）

平成 26 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務（中国四国地方環境事務所）

（３）生物多様性保全、および沿岸域における環境保全のネットワーク構築

平成 20 年 6 月に設立した足摺宇和海保全連絡協議会（会長：中地シュウ）の運営を共同事務局である環境省土佐清水自然保護官事務所とともに行った。平成 26 年度は平

成 27 年 2 月 21 日に宿毛市に於いて連絡協議会を開催し、平成 26 年度足摺宇和海国立公園海域保全検討調査結果の報告や平成 26 年度における海域保全活動の実施状況についての情報共有、平成 27 年度活動についての検討を行った。このほか、メーリングリストを利用し、会員相互の情報の共有を引き続き図った。

<自然環境保全関連の獲得資金（競争的研究費、受託研究費、請負調査等）一覧>

1. 平成 26 年度水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務

契 約 先：宿毛湾環境保全連絡協議会

契 約 期 間：平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 20 日

内 容：宿毛湾内地区海域に存するサンゴ礁等の地域資源のモニタリング調査及び保全活動の進行管理

2. 平成 26 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

契 約 先：一般財団法人自然環境研究センター

契 約 期 間：平成 26 年 5 月 28 日～平成 27 年 1 月 30 日

内 容：四国南西部沿岸における造礁サンゴ群集のモニタリング調査

3. 平成 26 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

契 約 先：中国四国地方環境事務所

契 約 期 間：平成 26 年 6 月 4 日～平成 27 年 3 月 20 日

内 容：串自然再生のための海域モニタリング調査

4. 平成 26 年度マリンワーカー事業（足摺宇和海国立公園海域保全調査）

※調査研究関連の請負業務一覧にも掲載

契 約 先：中国四国地方環境事務所

契 約 期 間：平成 26 年 6 月 23 日～平成 27 年 3 月 20 日

内 容：足摺宇和海国立公園の足摺地域におけるサンゴ群集及びサンゴ食害生物の分布状況と国立公園海域のけるサンゴ保全活動の実施状況の現況調査

3. 普及啓発

調査研究活動で得られた科学的知見や自然史情報を活用した普及啓発活動に引き続き取り組んだ。この活動を通じて、研究成果のアウトリーチを行うとともに、黒潮生態系に関する知識を広め、科学教育・海洋教育の場としての地域の海辺の利用促進、科学的対話の機会創出、地域における生物多様性保全、自然環境保全に関する意識の高揚を図り、地域における自然教育、海洋教育、科学教育等の教育ネットワークの構築を進めた。平成 26 年度に行った具体的な活動内容は以下のとおり。

(1) 自然史資料の公開

○黒潮生物研究所所内における公開展示

黒潮生物研究所の 1 階の廊下を常設展示場として整備し、ポスターやパネル、写真、標本などの展示を行った。また、6 月に飼育実験室の展示水槽をリニューアルした。展示内容の見直し、充実化を図ったことで、一定の見学者が訪れるようになった。

○地域イベント等における自然史資料の公開展示

地域の自然や生物多様性に関する知識を広めるため、地域で行われるイベント等において、ブース展示、企画展等を行った。平成 26 年度は宿毛湾環境保全連絡協議会主催のシンポジウム（平成 27 年 2 月 21 日：宿毛市）、宿毛市産業祭（平成 27 年 4 月 29 日）、エコラボ文化祭（平成 27 年 2 月 7,8 日：高知市）などでブース展示を行った。これらのブース出展では、他団体と協力して、海中景観や自然景観の写真、生態写真、生物多様性に関するポスター展示、実物標本の展示、自然・生き物に関する体験コーナーのなどを行った。

(2) 海辺の環境教育・社会教育の推進

海辺を使った教育プログラムの提案・企画および開催や学校教育、社会教育の場への講師の派遣、自然の教材化に向けた取り組み、環境教育、自然教育のネットワーク構築に向けた取り組みを行い、地域における海辺の環境教育、社会教育の推進を図った。

1) 自然教育、科学教育プログラムの企画・開催および講師派遣

サマースクールの開催などを行うとともに、学校教育・社会教育の場で行われる環境教育、自然教育、科学教育プログラムの企画・提案を行い、関連する依頼に応じて講師を派遣した。平成 26 年度の主な実績は以下のとおり。

○サマースクール等の開催（今年度中止）

黒潮生物研究所の開所以来、当財団では主催事業として、幡多・南予地方の小学生を対象とした 2 泊 3 日のサマースクールを夏休み期間中に 1 回開催している。このサマースクールは地域にすむ子供たちが地域の自然や生き物に親しむ機会をつくり、地域の自然に対する興味と関心を育て、自然とのよりよいつきあい方について考えてもらうことを目的としたものである。平成 26 年度については第十三回となるサマースクール（募集人数 30 名）を平成 26 年 8 月 9～11 日の日程で実施する予定であ

ったが、台風の影響により中止となった。

○地域の学校で行われる自然学習、環境学習等への講師派遣

- ・土佐清水市立三崎小学校総合学習（平成 26 年 6 月 18 日）
- ・愛南町立内海中学校海学習（平成 26 年 5 月 15 日、7 月 16 日、9 月 19 日）、
- ・大月町立大月小学校地域学習（平成 26 年 6 月 26 日：大月町西泊、7 月 3,4 日：大月町柏島）、
- ・高知県立四万十高等学校自然環境コース授業（平成 26 年 9 月 7,8 日）

○海辺の指導者育成、人材育成プログラムの企画運営および支援

- ・宿毛市教育研究会科学教育研究会理科部会（平成 26 年 10 月 3 日：大月町西泊）
- ・足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会（平成 26 年 6 月 14 日大月町周防形、平成 26 年 7 月 26 日スポットチェック勉強会土佐清水市竜串：一部請負業務）、
- ・土佐清水市観光ガイド養成講座第 3 回講座（平成 27 年 2 月 3 日：土佐清水市）

2) 地域の自然の教材化に向けた取り組み

市民団体、学校、教職員等と協力し、教育素材として利用可能な地域の生物多様性情報、自然史情報を収集・整理し、地域教育・環境教育・海洋教育プログラムとしてアウトプットするとともに、教育用標本、写真・映像資料のライブラリ化、指導者向けの資料の整備などを進めた。

3) 地域における環境教育、自然教育ネットワークの構築

教員研修会（教育研究会の理科部会）などでの講演活動、学校教育、社会教育の場での講師派遣などを通じ、四国地域における環境教育、自然教育ネットワークの構築を引き続き進めた。

(3) 海洋生物や沿岸の環境に関する科学的対話機会の創出

地域の自然環境、生物多様性等に関する講演等を行い、研究者と市民との科学的対話の機会をつくるため、研究所の主催事業、あるいは他団体との共催事業等として、地域で行われる海域モニタリング調査、保全活動、自然観察会等の開催に合わせた講演会、研修会等を行った。平成 26 年度の関連した取り組みは以下の様なものがある。

- ・黒潮生物研究所 海洋生物セミナー「学んでみよう！海の生きもの」（平成 26 年 8 月 30 日：高知県大月町西泊）
- ・JDEF 四国サンゴ保全活動勉強会（平成 26 年 5 月 31 日：高知県宿毛市）
- ・足摺宇和海国立公園大月地区 PV 勉強会（平成 26 年 6 月 14 日：高知県大月町尻貝）
- ・うみうしくらぶ 磯の勉強会 IN 黒潮生物研究所（平成 26 年 7 月 13～15 日：高知県大月町西泊）
- ・たつくし産卵観察会（平成 26 年 7 月 18 日、8 月 17 日：土佐清水市竜串）
- ・愛南サンゴを守る協議会学習会（平成 26 年 11 月 1 日：愛南町内泊）

- ・竜串リーフチェック勉強会（平成 26 年 11 月 8 日：土佐清水市竜串）
- ・カイクナイチャーネットワーク勉強会（平成 26 年 10 月 25 日：徳島県牟岐大島）
- ・宿毛湾環境保全連絡協議会サンゴ移植勉強会（平成 27 年 1 月 29 日：大月町西泊）

（４）書籍の出版等

1) 和文機関誌「CURRENT」の発行

財団の活動や地域の海辺の活動や話題に関する情報発信を行うため、研究所設立以来発行している機関誌「CURRENT」を引き続き発行した。平成 26 年度は 15 巻 1 号～4 号（通巻 56～59 巻）を発行し、印刷部数約 360 部のうち、約 260 部を国内の研究機関、博物館、動物園、水族館、その他関連団体、県内の学校、財団に寄附をいただいた方々などに送付した（バックナンバーは財団ホームページから PDF ファイルをダウンロード可）。

<平成 25 年度発行分の目次>

●CURRENT Vol. 15, no. 1 [通巻 56 号]（平成 26 年 6 月 25 日発行）

- ・中地シュウ. 2014. イロウミウシ *Spurilla nepolitana*. CURRENT, 15(1): 1.
- ・目崎拓真. 2014. 2011-2013 年の造礁サンゴ類の産卵観察の報告. CURRENT, 15(1):2-3
- ・中地シュウ. 2014. 高知県幡多郡大月町西泊の海岸地名について. CURRENT, 15(1): 4-7.
- ・中地シュウ. 2014. 再始動！大月町橋浦での藻場づくり. CURRENT, 15(1): 8

●CURRENT Vol. 15, no. 2 [通巻 57 号]（平成 26 年 8 月 25 日発行）

- ・中地シュウ. 2014. サナダヒモムシ *Baseodiscus hemprichii*. CURRENT, 15(2): 1.
- ・林 徹. 2014. 甦れ！サンゴ水槽. CURRENT, 15(2): 2-4.
- ・目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち（四国編）No.11 オオタバサンゴ *Blastomussa wells*. CURRENT, 15(2): 5
- ・中地シュウ. 2014. 足摺宇和海の棘皮動物 8 サンゴの海のおいしいウニ シラヒゲウニ. CURRENT, 15(2): 5-6.
- ・黒潮生物研究所の活動（平成 26 年 5 月～7 月）. CURRENT, 15(2): 7
- ・中地シュウ. 2014. ツツガキを食べてみた. CURRENT, 15(2): 8

●CURRENT Vol. 15, no. 3 [通巻 58 号]（平成 26 年 12 月 25 日発行）

- ・中地シュウ. 2014. スジユムシ *Ochetostoma erythrogrammon*. CURRENT, 15(3): 1.
- ・中地シュウ. 2014. 第 8 回竜串リーフチェックについて. CURRENT, 15(3): 2-3.
- ・中野理枝. 2014. NPO 法人日本ウミウシ連絡協議会を設立しました. CURRENT, 15(3): 4-5.
- ・目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち（四国編）No.12 エンタクミドリイシ

Acropora solitaryensis. CURRENT, 15(3): 5

- ・中地シュウ. 2014. 足摺宇和海の棘皮動物 9 ニューフェイス・ナマコ (小型種編). CURRENT, 15(3): 6.
- ・黒潮生物研究所の主な活動 (平成 26 年 8 月～10 月) . CURRENT, 15(3): 7.
- ・中地シュウ. 2014. 引くか? 引かぬか? 宝石珊瑚の天国入札. CURRENT, 15(3): 8
- CURRENT Vol. 15, no. 4 [通巻 59 号] (平成 27 年 4 月 25 日発行)
 - ・中地シュウ. 2015. タマキビ *Littorina brevicula*. CURRENT, 15(4): 1.
 - ・小淵正美. 2015. 四国西南部の浅海産ウミシダ類. CURRENT, 15(4): 2-5.
 - ・中野理枝. 2014. NPO 法人日本ウミウシ連絡協議会を設立しました. CURRENT, 15(3): 4-4.
 - ・目崎拓真. 2015. 日本サンゴ礁学会 17 回大会 (高知大会) の報告. CURRENT, 15(4): 6
 - ・黒潮生物研究所の主な活動 (平成 26 年 11 月～平成 27 年 1 月) . CURRENT, 15(4): 7.
 - ・中地シュウ. 2015. 砂の中の小さな生きものたち. CURRENT, 15(4): 8

2) 英和文学術誌「Kuroshio Biosphere」の発行 (年 1 回オンライン発行)

財団の研究成果・業績の紹介、研究所周辺地域で行われた動植物相や自然史に関する研究報告、研究所を利用して行われた研究報告などを掲載する英和文学術誌 (紀要) の Vol.11 を 4 月に発行した (PDF によるオンライン発行)。

<平成 25 年度発行分の目次>

●“Kuroshio Biosphere” Vol. 11 March 2015

- ・布村 昇 四国産等脚目甲殻類. pp. 1-40, 10pls.
- ・中野理枝・今川 郁・今本 淳 南西諸島で記録された囊舌類の報告. pp.41-60, 5pls.

3) 水産多面的機能発揮対策事業リーフレットデザイン

宿毛湾環境保全連絡協議会が実施している水産多面的機能発揮対策事業の一環として、宿毛湾海域の自然の特性や海域資源、同協議会の活動紹介を行う啓発パンフレットを作成した。

<関連する請負業務>

平成 26 年度水産多面的機能発揮対策事業普及啓発用リーフレットデザイン案作成 (宿毛湾環境保全連絡協議会)

(5) ホームページ、ブログの運用

ホームページ、ブログなどにより、財団に関する情報の公開、黒潮生物研究所の活動紹介、イベント等各種の告知、財団が実施している業務の紹介などを引き続き行った。地域生態系

における生物多様性や自然史に関する情報発信機能を高めるべく、整備と進めている。

(6) マスコミ等への資料および情報提供

【番組制作協力等】

- ・NHK 名古屋放送 (NHK プラネット) ヘサンゴ全般に関する情報提供 (7月 16,17 日)
- ・NHK 「深海のロストワールド」制作協力 (八放サンゴ類の情報提供) 1月 15-19 日
- ・TBS 『日本を今一度、洗濯し候。』6月 14 日 14:00 ~15:30 放送 : アカサンゴ映像提供
- ・テレビ朝日 「報道ステーションサンデー」: 宝石珊瑚に関する情報提供
- ・TBS テレビ 報道局 「ニュース 23」: 宝石サンゴ (アカサンゴ) の映像提供
- ・大洗水族館サンゴ産卵映像資料提供
- ・マリンダイビングに産卵写真提供
- ・日本テレビドラマ 「永遠の僕ら」に資料提供・情報協力

【新聞記事】 コメント掲載、取材を受けたもの

- 2014.5.27 高知新聞 竜串の生き物 150 種-観察ガイド完成-
- 2014.7.16 高知新聞 大月町で磯の生物勉強会-150 種採集多様性に感動-
- 2014.7.27 朝日新聞 辺野古新種の宝庫-埋め立て予定・大浦湾続々発見
- 2014.8.29 高知新聞 大月町で新種のウミウシ
- 2014.9.3 高知新聞 大月のウミウシに多様性
- 2014.9.29 高知新聞 中芸沖サンゴ台風被害 -住民団体が定期調査-
- 2014.9.10 高知新聞 中芸沖サンゴ 28 日に調査
- 2014.12.2 高知新聞 高知のサンゴを観察
- 2014.11.27 高知新聞 県内初 サンゴ礁学会
- 2015.2.7 高知新聞 海と川保全へ植樹 児童がモミジ 150 本
- 2015.2.25 高知新聞 宿毛湾は魅力いっぱい
- 2015.3.19 高知新聞 海の未来を探る

< 普及啓発関連の獲得資金一覧 (競争的研究費、受託研究費、請負調査等) >

1. 平成 26 年度水産多面的機能発揮対策事業普及啓発用リーフデザイン案作成
契約先 : 宿毛湾環境保全連絡協議会
契約期間 : 平成 26 年 7 月 1 日 ~ 平成 27 年 2 月 28 日
内 容 : 宿毛湾地域における自然資源の紹介と保全活動の啓発を目的とした印刷物 (下敷きおよびリーフレット 8p) のデザイン

4. 業績のまとめと一覧

平成 26 年度における業績数は、黒潮生物研究所の研究者（所長含む）による査読あり原著 3 件、査読なし原著等 7 件、その他著作 28 件、学会発表等 15 件、その他講演等 27 件となっており、前年度とほぼ同様の水準の業績を上げている（「図. 研究所業績の推移」参照）。

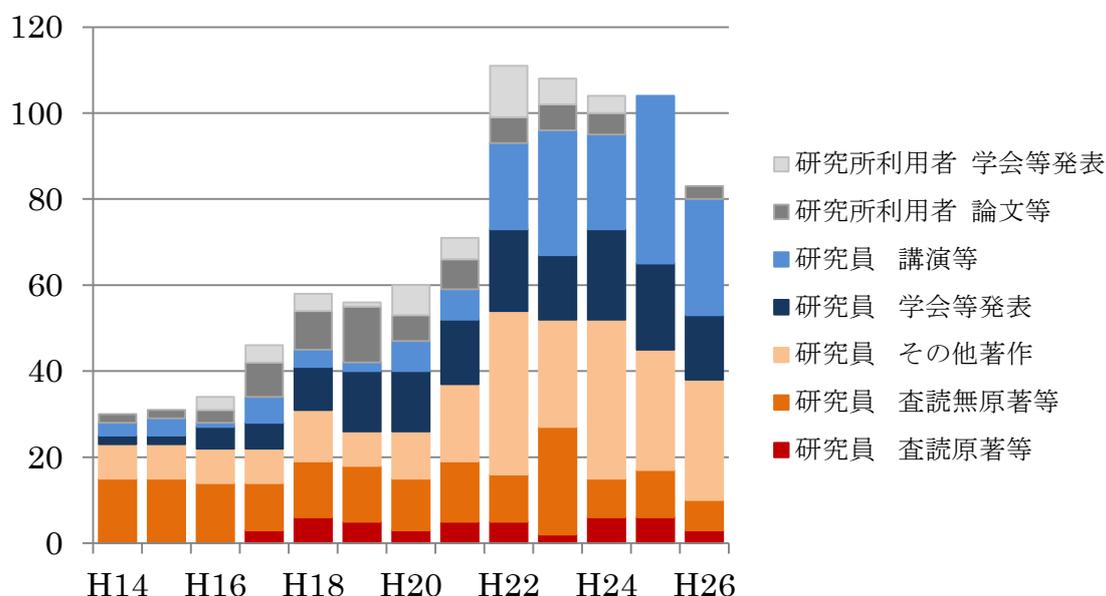


図. 研究所業績の推移

このほか、平成 26 年度の保全対策事業、普及啓発事業における講師派遣件数は 22 件、講師派遣人数は 32 人となっている。

(1) 著作（著者等の内、財団職員等は下線で示す）

【査読あり原著等】 3 件

1. Takahiro Taguchi, Satoshi Kubota, Takuma Mezaki, Satoko Sekida, Kazuo Okuda, Shu Nakachi, Teruyuki Shinbo, Yoshiaki Iiguni, and Akira Tominaga. Detection of characteristic heterochromatin distribution, highly amplified rRNA genes and presence of the human satellite III DNA motif in the scleractinian coral *Echinophyllia aspera* Ellis and Solander 1788. *Chromosome Science*, 16:33-38. (論文賞)
2. Obuchi, M., 2014. Two new records of *Heterometra* comatulids (Echinodermata: Crinoidea: Comatulida: Himerometridae) from Okinawa-jima Island, southwestern Japan. *Fauna Ryukyuana*, 13: 1-9.
3. Fujii T., K. Watanabe, C. Nishihara, M. Obuchi & H. Ohba. 2014. The giant brown alga *Sargassum carpophyllum* on a nearshore coral reef in Okinawa Island, Japan. *Marine Biodiversity*. Published online: October 2014.

【査読なし原著等】 7 件

1. 中地シュウ. 2014. 高知県幡多郡大月町西泊の海岸地名について. *CURRENT*, 15(1): 4-7.
2. 目崎拓真. 2014. 2011-2013 年の造礁サンゴ類の産卵観察の報告. *CURRENT*, 15(1):2-3
3. 中地シュウ. 2014. 第 8 回竜串リーフチェックについて. *CURRENT*, 15(3): 2-3.
4. 小淵正美. 2015. 四国西南部の浅海産ウミシダ類. *CURRENT*, 15(4): 2-5.
5. 中地シュウ. 2014. 足摺宇和海の棘皮動物 8 サンゴの海のおいしいウニ シラヒゲウニ. *CURRENT*, 15(2): 5-6.
6. 中地シュウ. 2014. 足摺宇和海の棘皮動物 9 ニューフェイス・ナマコ (小型種編) . *CURRENT*, 15(3): 6.
7. Takuma Mezaki, 2014. - Migrating Coral Community in High Latitude Area -, Shikoku. Status of Coral Reefs of East Asian Seas Region, p?-p?.

【その他の著作】 28 件

●機関紙関係 (12 件)

1. 中地シュウ. 2014. イロウミウシ *Spurilla neapolitana*. *CURRENT*, 15(1): 1.
2. 中地シュウ. 2014. 再始動! 大月町橘浦での藻場づくり. *CURRENT*, 15(1): 8
3. 中地シュウ. 2014. サナダヒモムシ *Baseodiscus hemprichii*. *CURRENT*, 15(2): 1.
4. 目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち (四国編) No.11 オオタバサンゴ *Blastomussa wells*. *CURRENT*, 15(2): 5
5. 中地シュウ. 2014. ツツガキを食べてみた. *CURRENT*, 15(2): 8
6. 中地シュウ. 2014. スジユムシ *Ochetostoma erythrogrammon*. *CURRENT*, 15(3): 1.
7. 中野理枝. 2014. NPO 法人日本ウミウシ連絡協議会を設立しました. *CURRENT*, 15(3): 4-5.
8. 目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち (四国編) No.12 エンタクミドリイシ *Acropora solitaryensis*. *CURRENT*, 15(3): 5
9. 中地シュウ. 2014. 引くか? 引かぬか? 宝石珊瑚の天国入札. *CURRENT*, 15(3): 8
10. 中地シュウ. 2014. タマキビ *Littorina brevicula*. *CURRENT*, 15(4): 1.
11. 目崎拓真. 2015. 日本サンゴ礁学会 17 回大会 (高知大会) の報告. *CURRENT*, 15(4): 6
12. 中地シュウ. 2015. 砂の中の小さな生きものたち. *CURRENT*, 15(4): 8

●機関紙以外 (12 件)

1. 中地 シュウ. 2014.6 知っちゃこ! 大月まめ知識 Vol.12 ~ 夏が旬 シラヒゲウニ ~. 広報おおつき, No.239:12
2. 中地 シュウ. 2014.8 知っちゃこ! 大月まめ知識 Vol.13 ~ 田んぼの殿様 トノサマガエル ~. 広報おおつき, No.240: 16

3. 中地 シュウ. 2014.10. 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.14 ～「くちめ」より怖い！？ヤマカガシ ～. 広報おおつき, No.241: 20
4. 中地 シュウ. 2015.12 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.15 ～ タイよりも高級！？めんどり ～. 広報おおつき, No.242: 19
5. 中地 シュウ. 2015.2 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.16 ～ くろたび、あかたび エビ網で獲れるセミエビ類 広報おおつき, No.243: 12
6. 中地 シュウ. 2015.4.1 黒潮生物研究所 シュウ先生のぐるぐる生物日記 ヒザラガイ (新ヒザラガイ目クサズリガイ科). 高知新聞
7. 中地 シュウ. 2015. 4.9 黒潮生物研究所 シュウ先生のぐるぐる生物日記 クマノミ (スズキ目スズメダイ科). 高知新聞
8. 中地 シュウ. 2015. 4.15 黒潮生物研究所 シュウ先生のぐるぐる生物日記 マガキガイ (盤足目ソデボラ科). 高知新聞
9. 中地 シュウ. 2015. 4.24 黒潮生物研究所 シュウ先生のぐるぐる生物日記 バイカナマコ (楯手目シカクナマコ科). 高知新聞
10. 中地 シュウ. 2015. 4.24 黒潮生物研究所 シュウ先生のぐるぐる生物日記 ムラサキオカヤドカリ (ヤドカリ目オカヤドカリ科). 高知新聞
11. 小淵正美, 2014. 相模湾産ウミシダ類書評. タクサ, 37: 51-52.
12. 小淵正美, 2015. タイドプールのサンゴを調べよう. 生物多様性モニタリングプロトコール集, 4. 鹿児島県生物教員等ネットワーク事務局.

●調査報告書等 (5編)

1. 平成 26 年度水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務報告書 2015.3. (中国四国地方環境事務所)
2. 平成 26 年度マリンワーカー事業 (足摺宇和海国立公園海域保全調査) 報告書 2015.3 (中国四国地方環境事務所)
3. H26 ウミトサカ類生物相調査報告 2015.3 (一般財団法人 美ら島財団)
4. 平成 26 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務 2015.3 (中国四国地方環境事務所)
5. 平成 26 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務報告書 2015.1 (一般財団法人自然環境研究センター)

(2) 講演等 (学会発表・依頼講演・主催講演)

○学会・研究集会等 14 件 (著者等の内、財団職員等は下線で示す)

1. 今原幸光. 2014.9.8. 「駿河湾から発見された有藻性ウミトサカ類カタトサカ属 *Sinularia* (花虫綱・八放サンゴ亜綱) の 1 未記載種」. NCB (日本刺胞・有櫛動物等研究談話会) 年次大会
2. 久保田 賢・目崎 拓真・小西 裕子・田口 尚弘・富永 明. 2014.11. エンタクミドリイシ

の主要発現タンパク質解析の試み. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) 口頭発表

3. 田口 尚弘・久保田 賢・目崎 拓真・関田 諭子・奥田 一雄・富永 明. 2014.11. キッカサンゴの分子細胞遺伝学的研究. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) 口頭発表
4. 目崎拓真. 2014.11. 高知県大月町西泊における新たなミドリイシ属の産卵パターン. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
5. 喜多村 鷹也・中地 シュウ・野原 健司・三浦 猛・三浦 智恵 美・目崎 拓真・横地 洋之. 2014.11. 高知県橘浦産ワレクサビライシの一種 *Cycloseris* sp. の個体群構造と維持機構解明. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
6. 林 徹・目崎 拓真. 2014.11. 高知県大月町橘浦における *Acropora solitaryensis* の成熟について. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
7. 加村 聡・片山 真基・田原 実・目崎 拓真・中地 シュウ. 2014.11. 宇和島市海域の貝殻増殖礁に蝸集する魚介類とサンゴ群集との関連性. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
8. 中地 シュウ. 2014.11. 四国西南海域における近年のオニヒトデ大発生とその影響. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
9. 小淵 正美・西平 伸. 2014.11. 沖縄島大浦湾の記録活動と情報発信. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表 ※保全奨励賞を受賞
10. 佐野 美月・目崎 拓真・中地 シュウ・小淵 正美. 2014.11. 高知県土佐清水市竜串での保全・普及啓発活動. 日本サンゴ礁学会第 17 回大会 (高知市) ポスター発表
11. 小淵正美. 2014.12.6. 南日本産「コアシウミシダ」の隠蔽種の可能性. 第 11 回日本棘皮動物研究集会 (東京大学三崎臨海実験所) 口頭発表.
12. 中地シュウ. 2014.12.6. 四国西南海域における近年のオニヒトデ大発生とその影響. 第 11 回日本棘皮動物研究集会 (東京大学三崎臨海実験所) ポスター発表.
13. 小淵正美・大森紹仁. 2014.12.6,7. 四国西南部の浅海産ウミシダ相. 日本動物分類学会第 50 回大会 (国立科学博物館) ポスター発表.
14. 中地シュウ. 2015. 1.24. 宿毛湾地域における海岸生物の利用と生物方言. はたのおと 2015 (高知県幡多郡三原村: 三原村農業構造改善センター) ポスター発表.
15. 小淵正美. 2015. 1.24. 生き物に名前をつける〜”ウミシダ”を例に〜. はたのおと 2015 (高知県幡多郡三原村: 三原村農業構造改善センター) ポスター発表.

○主催講演、依頼講演 (27 件)

1. 中地シュウ. 2014.5.15. 足摺宇和海の海の魅力と特徴. 内海中学校海学習 (全校). 内海中学校 (愛媛県愛南町須ノ川)
2. 小淵正美. 2014.5.15. モニタリング調査法について. 内海中学校海学習 3 年生. 内海中学校 (愛媛県愛南町須ノ川)

3. 中地シュウ. 2014.6.12. おおつきの うみべで あそぼう. 大月小学校1年生課外授業. 黒潮生物研究所 (高知県幡多郡大月町西泊)
4. 中地シュウ. 2014.6.13. 足摺宇和海国立公園地域のサンゴ群集の現状と保全の取り組みについて. 平成 25 年度足摺宇和海国立公園大月地区 PV 研修会. ボランティア研修棟 (大月町周防形尻貝)
5. 中地シュウ. 2014.6.17. たつくしの海といきもの. 三崎小学校 5 年生総合学習. 三崎小学校 (高知県土佐清水市三崎)
6. 中地シュウ. 2014.7.13. 足摺宇和海国立公園の海辺の自然-海産無脊椎動物の多様性について-. うみうしくらぶ第 20 回磯の生き物勉強会 IN 黒潮生物研究所. 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
7. 中地シュウ. 2014.7.13. 磯の生き物の利用と生物方言. うみうしくらぶ第 20 回磯の生き物勉強会 IN 黒潮生物研究所. 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
8. 目崎拓真. 2013.7.18. サンゴの産卵について. 竜串サンゴの観察会. 竜串ダイビングセンター (土佐清水市竜串)
9. 目崎拓真. 2013.8.17. サンゴの産卵について. 竜串サンゴの観察会. 竜串ダイビングセンター (土佐清水市竜串)
10. 中地シュウ. 2014.8.30. 足摺宇和海のすごいところ. 海洋生物セミナー「学んでみよう！海の生きもの」(共済事業). 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
11. 小淵正美. 2014.8.30. ウミシダ学ことはじめ. 海洋生物セミナー「学んでみよう！海の生きもの」(共済事業). 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
12. 中野理枝. 2014.8.30. うみうしトーク～高知のウミウシ類の多様性について～. 海洋生物セミナー「学んでみよう！海の生きもの」(共催事業). 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
13. 中地シュウ. 2014.9.8. 足摺宇和海国立公園の生物多様性と保全の取り組み. 四万十高校自然環境コース 2 年校外学習. 足摺海洋館レクチャールーム (高知県土佐清水市竜串)
14. 中地シュウ. 2014.9.8. 地域の海を知る -磯浜の海岸生物調査-. 四万十高校自然環境コース 2 年校外学習. 足摺海洋館レクチャールーム (高知県土佐清水市竜串)
15. 中地シュウ. 2014.10.3. 宿毛湾の環境と生物多様性 -棘皮動物を中心に-. 宿毛市教育研究会科学教育研究会. 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
16. 中地シュウ. 2014.10.3. 足摺宇和海地域での教育活動における海辺の利用-黒潮生物研究所による教育の取り組み. 宿毛市教育研究会科学教育研究会. 黒潮生物研究所レ

クチャールーム（高知県幡多郡大月町西泊）

17. 中地シュウ. 2014.10.3. 宿毛湾の環境と生物多様性 -棘皮動物を中心に-.宿毛市教育研究会科学教育研究会. 黒潮生物研究所レクチャールーム(高知県幡多郡大月町西泊)
18. 中地シュウ. 2014.11.1. サンゴってなんだろう. 愛南サンゴを守る会サンゴ保全活動勉強会. 愛媛大学南予水産研究センターうみらいく愛南（愛媛県愛南町内泊）.
19. 中地シュウ. 2014.11.8. サンゴが教えてくれる海の環境とその移り変わり. 竜串リーフチェック勉強会. 竜串ふれあいセンター（土佐清水市三崎）
20. 中地シュウ. 2014.11.30. 古くて新しい地域資源四国高知のサンゴと地域社会の結びつき. 日本サンゴ礁学会 17 回大会（高知大会）公開シンポジウム「温帯における造礁サンゴ研究の意義と価値の創造」.（高知県高知市高知会館）
21. 目崎拓真. 2014.11.30. 四国高知、おらんくのサンゴ大自慢！. 日本サンゴ礁学会 17 回大会（高知大会）公開シンポジウム「温帯における造礁サンゴ研究の意義と価値の創造」.（高知県高知市高知会館）
22. 中地シュウ. 2015.2.3. たつくしの海 その魅力発見. 土佐清水市観光ガイド養成講座. 土佐清水市社会福祉センター（土佐清水市寿町）
23. 中地シュウ. 2015.2.6. 地域の自然のなりたちを知ろう -すくも・おおつきの海辺の自然と森・川・里・海のつながり-. 宿毛湾環境保全連絡協議会植樹イベント. 宿毛市森林組合（宿毛市和田）
24. 中地シュウ. 2015.2.10. 地域の自然に親しむ活動-足摺宇和海国立公園地域の事例-.第 3 回大山隠岐国立公園ビジョン（仮称）研究会.（島根県隠岐・隠岐の島町）
25. 中地シュウ. 2015.2.10. 地域の自然に親しむ活動-足摺宇和海国立公園地域の事例-.第 3 回大山隠岐国立公園ビジョン（仮称）研究会.（島根県隠岐・西ノ島町）
26. 中地シュウ. 2015.2.21. 宿毛湾の生きものたち-宿毛湾海域の海辺の生物多様性-. 宿毛湾環境保全連絡協議会主催「魅力いっぱい宿毛湾の自然」.（高知県宿毛市宿毛文教センター）：基調講演
27. 中地シュウ. 2015.3.20. うみべのいきものちょうさいになろう. たつくし自然観察会. 土佐清水市竜串

（3）講師派遣実績（22 件、派遣講師数 32 人）

1. 中地シュウ, 小淵正美. 2014.5.15.内海中学校海学習（愛媛県愛南町須ノ川）
2. 中地シュウ. 2014.5.31. JDEF 四国サンゴ保全活動（高知県宿毛市沖の島）
3. 中地シュウ, 小淵正美. 2014.6.12. 大月小学校 1 年生課外授業（高知県幡多郡大月町西泊：黒潮生物研究所）
4. 中地シュウ. 2014.6.17.三崎小学校 5 年生総合学習(三崎小学校:高知県土佐清水市三崎)
5. 中地シュウ.2014.7.3,4. 大月町学校宿泊学習磯の生き物観察、夜の生き物観察(大月町柏島)

6. 中地シュウ, 小渕正美. 2014.7.13-15. うみうしくらぶ第 20 回磯の生き物勉強会 IN 黒潮生物研究所 (高知県幡多郡大月町西泊)
7. 目崎拓真, 小渕正美. 2013.7.18. 竜串サンゴの観察会 (竜串ダイビングセンター: 土佐清水市竜串)
8. 目崎拓真. 2013.7.20-24. 鹿児島水族館サンゴ初期育成研修 (黒潮生物研究所: 大月町西泊)
9. 中地シュウ. 2014.8.15. 宿毛潜水研究会サンゴ保全活動 (高知県宿毛市沖の島)
10. 目崎拓真, 小渕正美. 2013.8.17. 竜串サンゴの観察会 (竜串ダイビングセンター: 土佐清水市竜串)
11. 中地シュウ, 小渕正美. 2014.9.8. 四万十高校自然環境コース 2 年校外学習 (高知県土佐清水市竜串)
12. 中地シュウ. 2014.10.3. 宿毛市教育研究会科学教育研究会 (黒潮生物研究所レクチャールーム: 高知県幡多郡大月町西泊)
13. 目崎拓真, 中地シュウ. 2014.10.25. カイフネイチャーネットワークモニタリング勉強会 (徳島県牟岐大島)
14. 中地シュウ. 2014.11.1. 愛南サンゴを守る会サンゴ保全活動 (愛媛県愛南町西海)
15. 中地シュウ. 2014.11.8,9. NPO 法人竜串観光振興会主催竜串リーフチェック勉強会. 竜串ふれあいセンター (土佐清水市竜串)
16. 中地シュウ, 目崎拓真, 小渕正美. 2014.12.19-25. 大阪 ECO 動物海洋専門学校研修 (黒潮生物研究所: 大月町西泊)
17. 目崎拓真. 2015.1.29. 宿毛湾環境保全連絡協議会サンゴ移植研修 (黒潮生物研究所: 大月町西泊)
18. 中地シュウ. 2015.2.6. 宿毛湾環境保全連絡協議会植樹イベント (宿毛市和田・松田川)
19. 中地シュウ. 2015.2.7,8. 第 7 回えこらぼの文化祭「すなつぶのなかのたから探し」ブース展示 (高知県高知市旭町・こうち男女共同参画センター「ソーレ」)
20. 中地シュウ. 2015.2.10,11. 第 3 回大山隠岐国立公園ビジョン (仮称) 研究会. 島根県隠岐・隠岐の島町、西ノ島町
21. 中地シュウ. 2015.3.20. 環境省土清水自然保護官事務所主催観察会「たつくし自然観察会」 (土佐清水市竜串)
22. 中地シュウ, 戸篠 祥. 2015.4.26. 宿毛市まるごと産業祭展示ブース「足摺宇和海国立公園の自然・生きもの紹介」「顕微鏡をつかった体験」 (宿毛市山奈町宿毛市運動公園)

5. 寄附等

平成 26 年度には、当財団のメイン・スポンサーであるステラケミファ株式会社及び同社会長の深田純子様をはじめ、以下の 38 の法人・団体、個人からご寄付をいただいた。謹んで御礼を申し上げます。

- ・名古屋市 日建建物管理サービス 様
- ・高知県土佐清水市 竜串ダイビングセンター 様
- ・高知県土佐清水市 佐野美月 様
- ・茨城県鳥取市 鈴木笑香 様
- ・東京都 キューピー株式会社 QPeace 様
- ・大阪府堺市 上田章夫 様
- ・高知市 川島博海 様
- ・高知県宿毛市 木村宏 様
- ・高知市 坂本 彰 様
- ・高知県土佐清水市 竹葉秀三 様
- ・高知県幡多郡 橘浦漁業協同組合
- ・東京都 増田真弓 様
- ・香川県善通寺市 香川正樹 様
- ・株式会社 東京久栄 様
- ・高知県宿毛市 パシフィックマリン 様
- ・近畿大学 坂上吉一 様
- ・愛媛県南宇和郡 少林法子 様
- ・鹿児島市 山岡耕作 様
- ・高知県宿毛市 鎌田勇人 様
- ・高知県宿毛市 山下章一 様
- ・そのほか、氏名の公表を希望されない方 18 名

平成 25 年度寄付金総額 14,403,852 円

Ⅱ. 庶務の概要

1. 役員等に関する事項（平成 26 年度末現在）

（1）評議員（9 名）

①辞任：長山健二（平成 26 年 4 月 30 日付辞任）、澤田佳長（平成 26 年 10 月 1 日死亡）、小松句美（平成 27 年 3 月 31 日付辞任）

②就任：濱崎一洋（平成 26 年 10 月 30 日付就任）

（2）理事（6 名）

①退任：松岡和男（平成 26 年 7 月 26 日付退任）

②就任：和田康嗣（平成 26 年 7 月 26 日付重任）、深見公雄（平成 26 年 7 月 26 日付重任）、亀崎直樹（平成 26 年 7 月 26 日付重任）、橋本亜希（平成 26 年 7 月 26 日付重任）、中地シュウ（平成 26 年 7 月 26 日付重任）、宮下雅之（平成 26 年 7 月 26 日付重任）

③代表理事の退任および就任

退任：橋本亜希（平成 26 年 7 月 26 日付）、中地シュウ（平成 26 年 7 月 26 日付）

就任：橋本亜希（平成 26 年 8 月 22 日付）、中地シュウ（平成 26 年 8 月 22 日付）

（3）監事（2 名）

2. 職員等に関する事項

事務職員 1 名、研究職員（研究所長を含む）4 名、客員研究員 1 名

（退職者 2 名：平成 26 年 6 月 31 日付、平成 27 年 2 月 28 日付、採用者 1 名：平成 27 年 4 月 21 日付）

3. 会議に関する事項

（1）平成 26 年度理事会

①平成 26 年 6 月 12 日

・臨時書面理事会

開催場所：書面

出席等：理事現在数 6 名、出席 6 名

決議事項：保有株式の議決権行使の件

ステラケミファ株式会社の株主総会における議案について株主としての議決権を下記のとおり行使する。

第 1 号議案：定款の一部変更の件 賛成

第 2 号議案：取締役 8 名選任の件 賛成

第 3 号議案：退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件 賛成

(全員の同意が得られ承認)

②平成 26 年 7 月 11 日

・第 1 回通常理事会

開催場所：ステラケミファ株式会社本社 4 階応接室

出席等：理事現在数 7 名、出席理事 5 名、欠席理事 2 名（出席監事 1 名）

決議事項：議案 1. 平成 25 年度公益財団法人黒潮生物研究所事業報告書案承認の件（全会一致で承認）

議案 2. 評議員候補者案 承認の件
新評議員候補者 1 名の承認（全会一致で承認）

議案 3. 理事会新体制案 承認の件
評議員会に提案する役員交代案（全会一致で承認）

議案 4. 平成 26 年度第 1 回通常評議員会招集の承認（全会一致で承認）

報告事項：報告事項 1. 平成 26 年度収支予算および事業計画について

③平成 26 年 8 月 22 日

・臨時理事会

開催場所：書面

出席等：理事現在数 6 名、出席監事 2 名、出席 8 名、欠席 0 名

決議事項：代表理事の選任について

理事の任期満了に伴い、平成 26 年 7 月 26 日付で新理事 6 名が就任したことを受けて、代表理事・理事長を橋本 亜希、代表理事・専務理事を中地 シュウとすることが提案（全員の同意が得られ、承認）

報告事項：なし

④平成 27 年 4 月 17 日

・第 2 回通常理事会

開催場所：ステラケミファ株式会社 本社 4 階応接室

出席等：理事現在数 6 名、出席理事 5 名、欠席理事 1 名、（出席監事 0 名）

決議事項：議案 1 平成 27 年度事業計画書 承認の件（全会一致で承認）

議案 2 平成 27 年度収支予算書 承認の件（全会一致で承認）

議案 3 評議員候補者案 承認の件
新評議員候補者 1 名の承認（全会一致で承認）

議案 4 平成 26 年度第 2 回通常評議員会招集の承認（全会一致で承認）

報告事項：財団の運営状況について

(2) 平成 26 年度評議員会

①平成 26 年 7 月 26 日

・第 1 回通常評議員会

開催場所：黒潮生物研究所 2 階会議室

出席等：評議員現在数 10 名、出席 6 名、欠席 4 名

決議事項：

議案 1. 平成 25 年度事業報告書類等 承認の件（全会一致で承認）

議案 2. 評議員会候補者案の承認の件

新評議員候補者 1 名の承認（全会一致で承認）

議案 3. 任期満了に伴う理事の改選に係る理事の選任の件

理事候補者の選任の可否について以下の通り議決を得た。

橋本亜希について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

中地シュウについて本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

亀崎直樹について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

深見公雄について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

宮下雅之について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

和田康嗣について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

報告事項：報告事項 1. 平成 25 年度事業の報告

②平成 27 年 4 月 24 日

・第 2 回通常評議員会

開催場所：黒潮生物研究所 2 階会議室

出席等：評議員現在数 9 名、出席 6 名、欠席 3 名

報告事項：財団の近況について

決議事項：

議案 1 平成 27 年度事業計画案 承認の件（全会一致で承認）

議案 2 平成 27 年度収支予算案 承認の件（全会一致で承認）

議案 3 評議員候補者案 承認の件

新評議員候補者 1 名の承認（全会一致で承認）

(3) 評議員選定委員会

①平成 26 年 10 月 30 日

・第一回評議員選定委員会

開催場所：黒潮生物研究所 2F 会議室

出席等：評議員選定委員現在数 5 名、出席 3 名、欠席 2 名

決議事項：新評議員 1 名の選任について（全会一致で承認）

5. その他の庶務事項

(1) 事業報告等および事業計画書等の提出

内閣府への平成 25 年度の事業報告関係書類の提出を平成 26 年 7 月 30 日に、平成 27 年度事業計画書の提出を平成 27 年 4 月 28 日に行った。

(2) 登記等

理事、評議員の異動に合わせて以下の登記手続きを行った。

- ①平成 26 年 5 月 12 日：評議員 1 名辞任に伴う登記（平成 26 年 4 月 30 日辞任）
- ②平成 26 年 9 月 16 日：代表理事 2 名退任に伴う登記（平成 26 年 7 月 26 日退任）
- ③平成 26 年 9 月 16 日：代表理事 2 名就任に伴う登記（平成 26 年 8 月 22 日就任）
- ④平成 26 年 9 月 16 日：理事 1 名退任に伴う登記（平成 26 年 7 月 26 日退任）
- ⑤平成 26 年 9 月 16 日：理事 6 名重任に伴う登記（平成 26 年 7 月 26 日就任）
- ⑥平成 26 年 10 月 20 日：評議員 1 名死亡に伴う登記（平成 26 年 10 月 1 日死亡）
- ⑦平成 26 年 12 月 15 日：評議員 1 名就任に伴う登記（平成 26 年 10 月 30 日辞任）
- ⑧平成 27 年 4 月 28 日：評議員 1 名辞任に伴う登記（平成 27 年 3 月 31 日辞任）

なお、上記の変更に関する内閣府等に対する変更届を必要に応じて行った。